

安心・安全なまちづくりをめざして



役員の担い手不足と 支え合いの仕組みづくり

— 町内会のこれまで果たしてきた役割と現状 —

町内会・自治会は、街路灯の設置やごみステーションの管理、高齢者の見守り、行政情報の回覧など、地域コミュニティを支える中心的な存在として「共助」を担い、市区町村が地域コミュニティに関する施策を展開する際には町内会・自治会を通じて実施するなど、「公助」の部分でも重要な役割を果たしてきました。

しかし、近年、地震や大雨・豪雪などの自然災害や孤立死、近隣関係の希薄化などの地域の課題への解決に町内会・自治会に対する期待が高まる一方、社会情勢やライフスタイルの変化、コロナ禍による活動の規制などにより加入率の低下や役員のなり手不足が深刻化しています。また、社会全体的にデジタル化が進む中で従来の方法での町内会・自治会の活動や運営が難しくなっていることも背景の一つにあると考えられています。

このような課題がある中、これからの町内会・自治会活動を維持継続し、活性化させていくためには何が必要であるか、どのような方法があるか考えてみましょう！

— 町内会・自治会が抱える1番大きな課題 —

令和4年度に実施した「市区町村単位町内会・自治会組織基本調査」で、町内会が抱えている課題について伺ったところ、約8割の単位町内会から「役員のなり手不足」という回答がありました。

また、加入世帯数の増減では、約6割から減少しているとの回答があったほか、役員の高齢化も進んでおり、このままでは地域活動の停滞化とともに地域コミュニティの存続そのものが懸念されます。



毎日安心して暮らせるための町内会



- 毎日通る道路の街路灯
- ごみステーションの管理
- 毎月配布される広報誌
- 冬季の除雪
- 地域のお祭り e t c



**当たり前のことを当たり前
に取り組むのが町内会**

- 突然の自然災害
- 防犯対策 e t c



**当たり前じゃない状況でも
支え合えるのが町内会**



担い手不足の要因を考えてみましょう



町内会
継続させ

知られていない

- 町内会の活動内容が知られていない
- 町内会が果たしている役割や必要性が知られていない
- 町内会から積極的に、適切な情報が発信されていない

1. 組織の見直し

1. 町内会の見える化

- 町内会の役割や必要性を情報発信
活動内容や役員の役割がわかるマニュアル
などを作成し配布することで理解を深められます
- 予算や決算の透明化
どのように使われているか透明化されていることで町内会への安心感につながります

2. 役員の負担軽減

- 役員の任期制、輪番制
固定化の解消と担い手の負担軽減でき、会の共通理解にもつながります
- 1つの役職を複数名制に
「3名1役」などで負担の軽減することで活動に参加しやすくなります

3. 会員の声を聞く

- 社会情勢やライフスタイルの変化に伴い、これまでの活動が合わなくなっている場合もあります
- アンケートなどで会員の声を聞いてみましょう

4. デジタル化の推進

- 回覧板や会議・行事の出欠などをデジタル化することで、回覧板を回す手間がなく、時間を気にせず自分のタイミングで確認できます
また、役員に直接意見を気軽に伝えることが出来るなどメリットもあります

デジタル化の事例 ～室蘭市「知利別テラストウン自治会」～

2023年4月に組織された新興住宅街の町内会でLINEアプリを活用した町内会情報の共有化で若い世代の会員獲得に成功し**加入率100%達成**

- 住民の声に耳を傾けることが町内会・自治会の維持継続に不可欠町内会を作るかどうかアンケートを実施 → **65%が「必要」と回答**
- 役員・住民双方の負担軽減こそが持続可能な活動につながる回覧板を見る方法については**96%がデジタル化**を希望回覧板をなくし、LINEで情報共有



結果 住民ニーズと町内会の必要性がマッチング → **加入率100%**

発見

顔を合わせる機会が減ることで、地域住民の活動も減るのではないかと考えていましたが、活動の負担感が軽減したことで町内会に対する負のイメージが払拭され、本当に必要なことは皆で助け合おうという意識が高まりました。また、若い世代が地域活動に参入しやすいシステムが形成され自分の住む地域への関心も高まっています。

を維持・
するために

負担が大きそうな
イメージ

- 役員というだけで忙しい・負担が大きいというイメージがある
- 役員や町内会活動する体力も時間的余裕もない
- 加入すると役割が色々と回ってきそう

2. 若い世代が参加しやすい環境を整える

仕事や家庭を
優先できる

- 仕事をしている人でも参加できるよう、会議の時間を平日夜や土日に行うなど考えてみましょう
- 仕事や家庭の事情により参加できない場合もあることを容認しましょう

若い人たちを
尊重する

- 若い人たちのアイデアや考え方、思いを否定せず尊重しましょう
- 行事の1つを企画から運営までお任せしてみてもいいでしょうか
年長者はこれまでの経験を活かし、困ったときのサポート役で支えましょう

気軽に
参加できる

- 会議や行事の手伝いなどには子連れでも可能にしたり、簡単な役割から始めてもらうなど少しずつ参加してもらいましょう
- 事前の準備だけ、行事当日のお手伝いだけなど、短期であれば引き受けてくれる若い世代が地域に潜在しています

まずは
声掛けから

- 行事に参加した人に積極的に声を掛け、いきなり役員や役割を打診せず、まずは顔見知りの関係づくりから始めましょう
- 行事や加入の勧誘で一度断られると再度声を掛けにくいですが、誘われた方も一度断ると手を上げにくい場合もあるので、何度か声をかけてみましょう

小樽市
新潮町会

スマホを活用した居場所作り

～ 心れ愛、語り愛、支え愛～



令和5年度ひとりの不幸もみのがさない住みよいまちづくり全道運動事例

目的 スマホ教室の開催を通して世代間の交流を促進。町会活動の周知と理解を促し、今後の担い手づくりを育成。

内容 大学生が教えるスマホ教室

成果 役員会の開催のほか、イベントの周知やスタッフ募集にもLINEで迅速で容易に伝達できるため、予想以上の参加者やスタッフが集まりました。会議等に不参加でも、何が行われたかがLINEで知ることができるため、次の会議等に違和感なく参加できるようになったと喜ばれました。情報提供や意見交換が容易にできることで、前向きな意見や企画が出されるようになりました。



無料で使えるアプリ

DX推進支援アプリ 「デジタル回覧板」

閲覧したい資料を『撮ってすぐ配信』
回覧板をまわす手間と時間を削減できます。



個人情報が見逃される心配ありません
デジタル回覧板は、個人情報を取壊せずに利用できるアプリなので、安心してご利用いただけます。
また弊社では、プライバシーマーク（Pマーク）やISMS（情報セキュリティマネジメントシステム）も取得しております。



ご利用のアプリがインストール済み、ご登録ください。
株式会社フレンクスメールアドレス 0428-23-3120

LINEアプリを活用
している町内会も
増えています



講演

旭川市立大学保健福祉学部 コミュニティ福祉学科
大野 剛志 教授



北海道内では都市部への人口集中が進んでおり、札幌、旭川、函館の3市で全体の48.9%を占めている一方、地方では高齢化が進んでおり、これからは都市部でも高齢化の影響が大きくなっていくと考えられています。

町内会においても、組織率減少と役員の高齢化が同時進行し、地域活動が停滞する可能性があるため役員の担い手確保や活性化について、道内と全国の先進地の事例で工夫を探りました。

① 厚真町豊丘自治会

胆振東部地震の際に、元高校教員が経験を生かして手書きの新聞を作り、給水車の情報や住宅被害状況などを伝えた。退職者は現役時代に培った技能があるため、生かせるような環境を作ることが大切。

② 室蘭市知利別テラスタウン自治会 ※本紙見開き参照

③ 岩手県盛岡市三本柳南町内会

やれる範囲で無理せずやる。新たに事業を1つ始める場合には既存の事業2つを止めて負担を軽減している。

④ 福島県郡山市日吉ヶ丘町会

会員との信頼関係をもとに、加入全世帯の家族構成や75歳以上の高齢者の人数など情報を得て共同管理している。

東日本大震災の際の安否確認で活用できた。

住民が求めることと町内会ができることを合致させることが必要で、住民と役員双方の負担軽減を進めることや、活動を進めながらリーダーを養成することも重要です。「活性化」ばかり意識するのではなく、住民や参加者の満足度に重点を置くことが今後町内会を維持継続していくために重要になってきます。

また、地域の学生（小中高校生や大学生）と共同で行事を行うと世代間の交流や若年層への町内会、地域活動の理解が進むだけでなく、学生の保護者にもつながることから、学生が町内会と地域をつなぐ架け橋になることも期待されています。

実践報告

● 倶知安町琴和町内会
会長 大河原 哲朗 氏

1978年に町内会館ができて活動が活発化した琴和町内会では、平成18年には、「ちょぼら（ちょっとしたボランティア）除雪隊」を結成し、安否確認を兼ねて高齢者宅の除雪の手伝いをしています。地元の学生や町外からの参加者などとの交流も行っています。

ボランティア活動を通して世代を超えた住民同士の絆が深まっており、町内会活動の充実につながっています。



● 札幌市東区・札幌地区自治連絡協議会
会長 岩谷 隆司 氏

新住民を町内会に勧誘する際に、「なぜ入らなければいけないのか」という人もいるので、班長で駄目であれば役員が行くようにしています。

町内会の活動内容や、インフラ関係や近くの交番など暮らしに役に立つ電話番号を掲載した「会員の便利帳」を作っており、訪問する際に持っていくと町内会への理解が深まりやすく、取り組み開始から約20年で加入率は約98%になりました。

町内会清掃など、行事を通して地元の老人クラブや子どもたちとの交流にも力を入れています。



※当パンフレットは令和6年8月30日開催の町内会活動実践者研修会（講師：旭川市立大学保健福祉学部コミュニティ福祉学科 大野剛志教授）の講義内容を参考に作成しています。